



エレクトリックベース

取扱説明書

もくじ

安全上のご注意	2
糸巻トルクの調整.....	7
弦高の調整.....	8
オクターブピッチの調整.....	9
トラスロッドの調整（ネックの反りの修正）.....	10
ピックアップの高さ調整.....	10

このたびは、ヤマハエレクトリックベースをお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

製品の機能を十分に活用するために、この取扱説明書をよくお読みになってからご使用ください。なお、ご一読いただいた後も、不明な点が生じた場合に備えて、保証書と共に大切に保管していただきますようお願い申し上げます。




安全上のご注意

ご使用前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。



■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、以下のような意味があります。

-  「ご注意ください」という注意喚起を示します。
-  ～しないでくださいという「禁止」を示します。
-  「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

-  **警告** この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
-  **注意** この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

安全上のご注意

警告

水に注意



浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。また、本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。

感電や火災、または故障の原因になります。

電池



電池を分解したり火の中に入れてたりしない。
発熱、破裂、発火の原因になります。



使い切りタイプの電池は、充電しない。
充電すると液もれや破裂の原因になります。



電池を金属製のネックレスやヘアピン、コイン、鍵などと一緒に持ち運んだり、保管しない。
電池がショートし、発熱、破裂、火災のおそれがあります。



指定以外の電池は使用しない。また、種類が異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



電池はすべて+ / -の極性表示通りに正しく入れる。
正しく入れていない場合、発熱、発火、液漏れの原因になります。



長時間使用しない場合や電池を使い切った場合は、電池を本体から抜いておく。
電池が消耗し、電池から液漏れが発生し、本体を損傷するおそれがあります。




電池は乳幼児の手の届かない所に保管する。
口に入れたりすると危険です。



電池が液漏れした場合は、漏れた液に触れない。
失明や化学やけどなどのおそれがあります。万一、液が目や口に入ったり皮膚についたりした場合は、すぐに水で洗い流し、医師にご相談ください。

 **注意**


運搬 / 設置


 直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度や湿度が高くなるところ、逆に温度や湿度が極端に低いところ、またほこりや振動の多いところで使用しない。
本体の部品が変形したり内部の部品が故障したりする原因になります。

 テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。
電気回路の影響により、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。


 不安定な場所に立てない。
機器が転倒して故障したり、お客様がけがをしたりする原因になります。


接続


 他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行なう。
また、電源を入 / 切する前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にする。
感電または機器の損傷のおそれがあります。

 悪天候の屋外や、湿気が特に多い場所で使用する場合は、電気による事故に充分注意する。接続するアンプなど外部機器の取扱説明書もよく読むこと。
落雷による事故、火災や感電の原因となることがあります。


取り扱い


 弦交換や調整の際、顔に楽器を近づけない。
不意に弦が切れて目を傷つけるおそれがあります。

 弦交換の際、弦を切る場合は、十分にペグ(糸巻)をゆるめてから行なう。
急激に弦のテンションが失われると、ネックにダメージを与えてしまいます。また、弦の跳ね返りにより、思わぬケガの原因ともなります。

 弦を交換したあと、弦の不要な部分は短く切りそろえる。
弦の先は鋭利なため、けがの原因となることがあります。

 楽器のお手入れの際、弦の先端部分でけがをしないように注意する。
弦の先は鋭利なため、けがの原因となることがあります。

 ストラップを使用して演奏する場合は、ストラップがギターに確実に固定されていることを確認する。

 ストラップだけを持ってギターを持ち上げない。
ギターがストラップからはずれて落下するおそれがあります。必ずギター本体を持ってください。

安全上のご注意



楽器を振りまわすなどの乱暴な取り扱いはしない。

楽器がストラップからはずれて落下したり、周囲の人を傷つけるなど、思わぬ事故の原因となります。



以下のような使い方は絶対にしない。

- ・ ねじれた状態でのストラップの取り付け
- ・ 楽器に急激に力が加わる動作
- ・ 古くなって強度の落ちたストラップの使用

楽器がストラップからはずれたり、ストラップが切れるなどして楽器が落下するおそれがあります。



本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは絶対に使用しない。また、本体上にビニール製品やプラスチック製品などを置かない。本体の近くでエアゾールタイプの殺虫剤を散布しない。

本体が変色 / 変質する原因になります。お手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。



本体の上に乗ったり重いものをのせたりしない。また、ツマミやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損する原因になります。

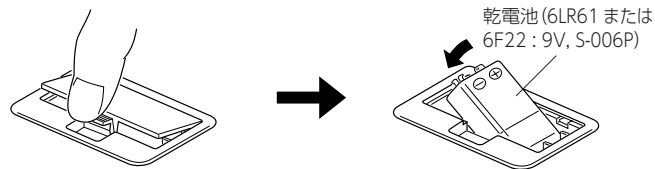
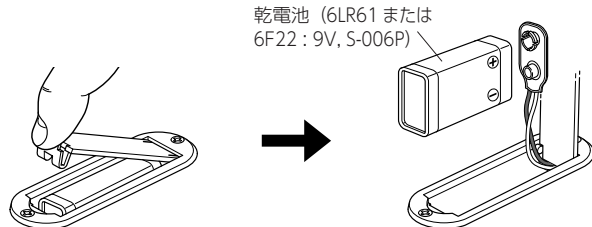
不適切な使用や改造により故障した場合の保証は致しかねます。

使用済みの電池は、各自治体で決められたルールに従って廃棄しましょう。

その他、取り扱い上の注意

- この製品は工場出荷の際に最適な状態に調整されています。調整が必要なときは、技術を必要とする部分もあるため、なるべくお買い求めのお店にご相談ください。ご自分で調整される場合は、この取扱説明書に書かれた調整方法にしたがって行ってください。
- 楽器の演奏は適当な音量で行なってください。特に深夜の使用は、他人の迷惑とならないよう充分注意してください。
- 落下や転倒、輸送時の衝撃によって最も起こりやすい事故は、ネック折れです。ギターを使用しない時は、ケースにしまうかスタンドに立てて、倒れにくい状態で保管してください。

乾電池の取り扱いについて

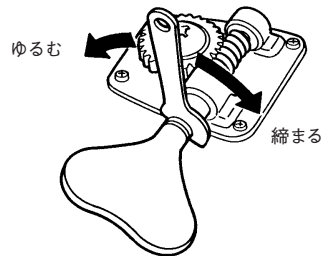
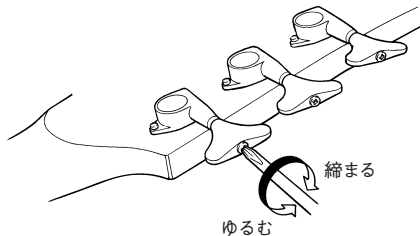
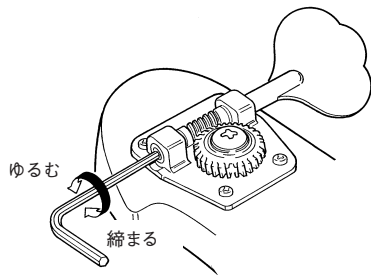


- 乾電池を交換するときは、上図の手順に従い+ / -の極性に注意して行ってください。
- 電源には、DC9V, S-006P (6LR61 または 6F22) 乾電池をご使用ください。

糸巻トルクの調整

糸巻の回転トルクは、下図の各トルク調整ネジで調整します。

- トルクが弱く、演奏中にチューニングが下がってくる場合...調整ネジを右（時計廻り）に廻す（締める）。
- トルクが強く、チューニングがスムーズに行なえない場合...調整ネジを左（反時計廻り）に廻す（ゆるめる）。



弦高の調整

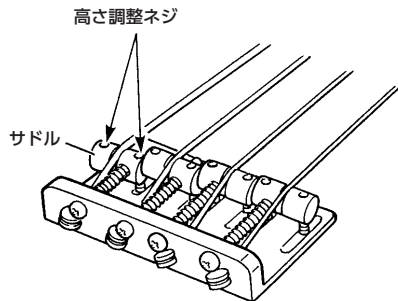
弦高は、弦とフレットとの間隔を示すもので、このセッティングによって演奏性が変わります。

弦高の調整は、ブリッジ上のサドル（駒）で行ないます。サドル左右の高さ調整ネジを交互に少しずつ調整してください。

弦高が高いと弾きにくく、低すぎるとビリつきの原因になります。

最終フレットと弦との間隔が以下の数値になるように調整してください。

弦			チューニング	フレットと弦の間隔
4 弦ベース	5 弦ベース	6 弦ベース		
—	—	1 弦	High C	2.6mm
1 弦	1 弦	2 弦	G	2.7mm
2 弦	2 弦	3 弦	D	2.8mm
3 弦	3 弦	4 弦	A	2.9mm
4 弦	4 弦	5 弦	E	3.0mm
—	5 弦	6 弦	Low B	3.1mm



【注意】

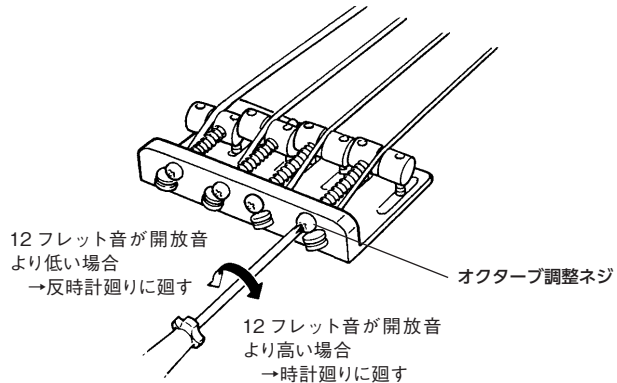
弦高の調整は、トラスロッドが正しく調整された状態で行なってください。また、弦高を変えるとチューニングも変わりますので、そのつど正しいピッチにチューニングしながら弦高調整を行なってください。

オクターブピッチの調整

オクターブが合っていないと、ローポジションではチューニングが合っている状態でもハイポジションでは狂っている状態になります。

正確なチューニングを得るためには、オクターブピッチの調整が必要です。開放音と12フレットを押さえた時の音（1オクターブ高い音）が同じでない場合は、オクターブ調整ネジを回転させて、オクターブピッチを合わせます。

弦のゲージを変えた時や、弦高を変えた時、またはトラスロッドの調整を行なった場合は、オクターブピッチの調整をする必要があります。



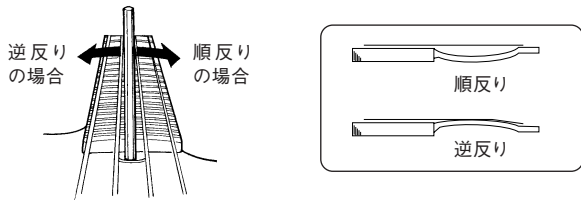
トラスロッドの調整(ネックの反りの修正)

ヤマハギター・ベースはすべて、出荷前に完璧な調整をしてお届けしていますが、環境の変化等によりネックの状態が変化する場合があります。ご使用前に確認・調整をすると万全です。

トラスロッドのナットを廻して、ネックの反りを調整します。

1フレットと最終フレットを押さえた時に、中央フレット付近で弦とフレットの間やや隙間(0.3mm程度)があるのが正常な状態です。

- ・順反りの場合…トラスロッドを右に廻す
- ・逆反りの場合…トラスロッドを左に廻す



【注意】

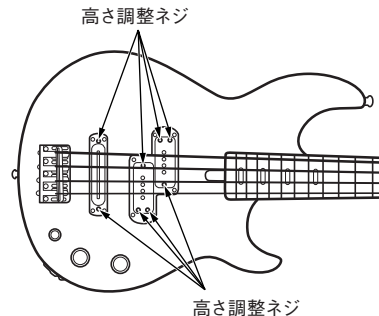
トラスロッドの調整方法がわからない場合は、お買い上げのお店へお申し出ください。

ピックアップの高さ調整

ピックアップはエレキベースで大変重要な部分です。セッティングが適性でないと、満足のいくサウンドは得られません。

ピックアップの高さ調整はピックアップの両サイドのネジで行います。ポールピースと弦との間隔は、最終フレットを押さえた状態で、2～3mmが適当です。

ピックアップと弦との距離が近くなるほど出力は大きくなります。ピックアップを弦に近づけすぎて、演奏時にピックアップと弦が接触しないように注意してください。



ZV54671 版次 R2 2311

© Yamaha Corporation

Published 11/2023 IPC0
2023 年 11 月 发行